

# 失敗症例から学ぶマテリアルの 選択と咬合サイクルの重要性

○森永 康彦（株式会社シケン）

# 日本顎咬合学会 利益相反開示

筆頭発表者名：森永康彦

演題発表に関連し、開示すべき利益相反  
関係にある企業などはありません。

# 【症例の概要】

近年オールセラミックをはじめ生体親和性が高く強度に優れたマテリアルが増えた。だが一方では臨床年数が少なく、長期信頼性の観点から、従来のマテリアルがまだまだ使用されるのも事実である。また口腔内環境も食生活の変化、ストレスなど複雑な不の原因が増えている。今回は失敗症例をもとに原因検証、考察をおこなった。

症例：60代女性

患者の趣旨：綺麗な歯を入れたい。噛み合わせに違和感があるので改善してほしい。

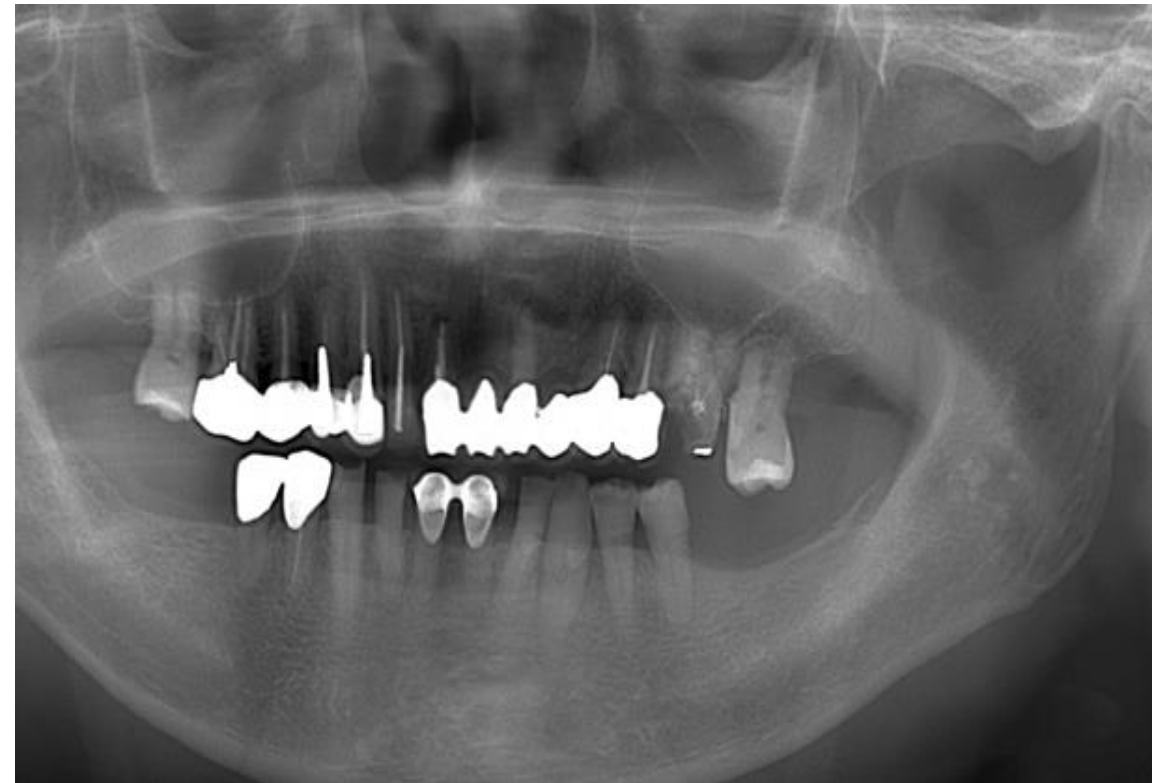
## 【所見・治療方針】

上顎左側中切歯の欠損、上下顎前歯に見られる歯頸部楔状欠損、下顎臼歯の欠損。ブラキシズムがあると判断した。治療方針：①上顎左側中切歯歯肉欠損部分は補綴にて対応する。②メタルコアは再形成し使用する。③右側前歯部は残存歯と同調させながらも運動しやすいガイドを与える。④左側は緩めのアンテリアガイダンスを与える。臼歯は側方運動時にはガイドさせない。⑤治療後のことを考えナイトガードを進めたが患者は拒んだ。



## 【補綴方針・計画】

補綴方針：①ブラキシズムによる歯の欠損が見られる為、強度が高いジルコニアは避けセミプレシャスのPFMとする。②欠損部のダミーはオボイドとし歯肉のクリーピングを期待する。③ストラクチャーはセラミックがチップしにくいデザインとする。④咬合サイクルは咬合の違和感を解消するために右側はチョッパー型、左側はグラインド型とする。⑤中心咬合位での前歯の接触は避ける。





## 【治療経過 4年】

①口腔内環境は至って良好である。②左側中切歯欠損歯肉はクリーピングしている。③かみ合わせによる違和感は解消されよく噛めるようになった。④左側側切歯がリセッションしている。（フレームのたわみ？）⑤上下前歯が接触しだしている。⑥左側中切歯歯頸部遠心の歯肉の退縮が気になる（歯根に大きな咬合圧が加わっている）⑦側方運動時に臼歯が接触しだしている。



## 【治療経過 5 年】

上顎右側中切歯の歯根破折がおきた。原因：ブラキシズムによるフレームのたわみが硬いメタルコアを通して歯根に異常な力を加わえ続けたのが原因と推測される。補綴物をジルコニアなどの強度の高いものを選択していなかったのはせめてもの救いであった。患者は普段の生活に何も問題を感じていない為、破折歯根を取り除きそのまま経過観察する。





## 【治療経過 6年】

左側中切歯の歯根破折部除去によりフレームのたわみが解消され左側側切歯のリセッションは落ち着いている。生活上の問題はない。

ドクターとの問題点の共有：①マテリアルの選択の重要性。②咬合サイクルの重要性。③補綴デザインの重要性。（簡単なレストを設けて2ピースにする）④最終補綴物に対する問題を事前に時間をかけて煮詰めることの重要性。





# 【考察】

単独歯にはその歯牙にかかる力を受け止められるある程度の許容がある。しかし、この症例のようにロングスパンブリッジなど歯牙同士を固定することで力を分散できず許容を超えてしまうことがある。許容範囲を超えるストレスを受けた歯牙は、周りの組織への悪影響・補綴物の破壊・歯根破折のいずれかの結果を招くことになる。

今回の症例から、マテリアルの選択・咬合の与え方・補綴デザインの重要性を改めて認識したと共に、今後はより一層、患者を中心とした口腔内環境の維持をまず第一に考える補綴物共有に力を入れていきたい。

資料提供：兵庫県 かわだ歯科医院